

基軸

社会保障から考える
「マイナンバー」制度 ③

自治体情報政策研究所代表 黒田充



経団連は、2004年9月、提言「社会保障制度等の一体的改革に向け

て」を示した。提言は、国民一人ひとりの自助努力を基礎とする社会を構築することにより、活力ある経済社会を構築することが国を挙げての課題であるとし、経団連流の社会保障個人会計を提案している。

そこには「社会保障の各制度から同じような趣旨で行われている給付を合理化することを前提に、個人ごとに給付と負担を把握し

て、運営上、こうした重複給付をチェックし、効率的な給付を行おうとするもの」であり、

「財産相続時における、社会保障受給額（特に年金給付）のうち本人以外

が負担した社会保険料相当分と相続財産との間で調整を行う仕組みも検討すべき」だとあった。

本人以外が負担した年金保険料の総額は1000万円、ところが長生きしたため給付総額は1500万円に。500万円貰い過ぎだから、遺産

経団連が「死後精算」提案

給付の合理化の行き着く先

「本人以外が負担した年金保険料の総額は1000万円、ところが長生きしたため給付総額は1500万円に。500万円貰い過ぎだから、遺産

公正性・納得性を挙げて

「本人以外が負担した年金保険料の総額は1000万円、ところが長生きしたため給付総額は1500万円に。500万円貰い過ぎだから、遺産

公正性・納得性を挙げて

「本人以外が負担した年金保険料の総額は1000万円、ところが長生きしたため給付総額は1500万円に。500万円貰い過ぎだから、遺産

（つづく）